

久喜市の財政指標等の推移(普通会計)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
歳入総額(千円)(A)	46,994,526	45,958,272	45,563,435	45,805,474	47,323,706	49,778,453
歳出総額(千円)(B)	44,902,648	43,611,082	43,084,970	43,635,106	45,244,643	47,541,668
市税総額(千円)(C)	21,650,508	21,427,936	21,422,788	21,339,979	21,559,813	22,116,832
C/A(%)	46.1	46.7	47.0	46.6	45.6	44.4
人件費(D)(千円)	8,486,092	8,129,978	8,002,650	7,778,620	7,368,178	7,464,937
D/B(%)	18.9	18.6	18.6	17.8	16.3	15.7
議会費(E)(千円)	485,976	304,920	439,189	406,114	387,689	355,787 (一般会計)
E/B(%)	1.1	0.7	1.0	0.9	0.9	0.7
財政力指数	0.861	0.851	0.856	0.861	0.867	0.868
(県平均)(単純平均)	0.945	0.914	0.881	0.852	0.851	0.854
(加重平均)	0.979	0.949	0.918	0.891	0.891	0.894
標準財政規模(千円)	28,743,566	29,997,303	30,234,001	30,219,098	30,476,469	30,606,128
経常収支比率(%)	96.3	88.9	92.2	92.4	91.0	91.7
(県平均)	90.5	88.1	90.0	90.5	90.7	92.4
実質赤字比率(%)	-	-	-	-	-	-
(県平均)	-	-	-	-	-	-
連結実質赤字比率(%)	-	-	-	-	-	-
(県平均)	-	-	-	-	-	-
実質公債費比率(%)	12.2	11.4	10.9	10.0	9.4	9.0
(県平均)	8.9	8.0	7.1	6.5	5.9	5.2
将来負担比率(%)	113.6	109.4	98.4	87.9	67.3	51.5
(県平均)	71.6	59.7	48.8	39.7	32.4	29.5
積立金現在高(千円)	2,293,909	3,636,173	4,075,365	5,303,429	5,844,775	6,896,415
地方債現在高(千円)	47,600,302	48,546,555	47,747,134	47,748,679	48,305,884	48,073,682
ラスパイレス指数	-	96.9	97.1	105.3	105.1	97.2
(県平均)	-	-	-	-	(99.3)	-
(除 さいたま市)	99.6	99.8	99.8	108.2	108.0	100.1
(国が給与減額を行わなかった場合)	-	-	-	-	(101.3)	-
(県平均)	-	-	-	97.3	97.1	-
(除 さいたま市)	-	-	-	100	99.7	-

※1 平成25年度のラスパイレス指数の()は、給与減額支給措置(平成25年7月から平成26年3月)を実施後の指数。

※2 平成21年度については、旧一市三町の指標等を合算した。

●財政力指数

標準的な行政活動を行う財源をどの程度自力で調達できるかを示した指標で、3か年の平均値です。単年度で1を超えると普通交付税は交付されません。1以下でも1に近いほど財源に余裕があるとされます。

●経常収支比率

財政構造の弾力性を示す指標で、税金などの経常一般財源に占める、人件費や公債費などの経常的な支出に充当された一般財源の額の割合を表すものです。比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

●実質赤字比率

各年度の経営状況を示す指標で、「一般会計等の実質赤字額(注1)」が「標準財政規模(注2)」に占める比率を表します。その年度に実施した事業等の支払いは、その年度の歳入から支出することが原則ですが、実質赤字額とは、歳入が歳出に不足し、翌年度の歳入を繰り上げ、赤字を実質上翌年度に繰り越した場合等に発生します。こうした赤字が無い場合は、比率がありませんので、「-」と表示されます。(注1) 実質赤字(黒字)：歳入決算額から、歳出決算額と翌年度への繰越額(繰越明許繰越額・事故繰越額等)を引いて算出。マイナスの場合は実質赤字、プラスの場合は実質黒字となる。(注2) 標準財政規模：市税や普通交付税など、通常収入が見込まれる一般財源の規模。

●連結実質赤字比率

各年度の経営状況を示す指標で、「連結」とあるのは、市の一般会計・特別会計・公営企業会計の全てを合わせて計算する意味です。全ての会計の実質赤字額が「標準財政規模」に占める比率を表します。全ての会計で実質赤字が無い場合や、実質黒字額の合計が実質赤字額を超えている場合は比率がありませんので、「-」と表示されます。

●実質公債費比率

市の公債費等による財政負担の度合いを判断する指標で、一般会計等が実質的に負担する公債費の額の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。3か年の平均で示されます。資金繰りの程度を示す指標とも言え、この比率が高くなると、財政の弾力性が低下し、他の投資的経費等を節減する必要が生じます。

●将来負担比率

市が将来負担すべき実質的な負債(地方債現在高等)による財政負担の度合いを判断する指標で、一般会計等が将来負担すると見込まれる実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。この指標は、単年度の財政状況ではなく、文字通り将来の負担の度合いを表すということから、この比率が高い場合、将来、財政運営上の問題が生じる可能性が高くなります。

●ラスパイレス指数

国家公務員行政職の基本給を100とした場合の地方公務員(一般行政職)の給与水準を表すものです。100に近いほど国家公務員の水準に近く、100を超えると国家公務員の水準を超えていることを示しています。